

新除草・調節剤

ゲザトップ®D 水和剤

メトラクロール・CAT除草剤

(取扱メーカー) 日本農薬株式会社

日本チバガイギー株式会社

対象作物：日本芝（こうらいしば）。

成分・作用特性：本剤は、2-クロロ-2'-エチル-N-(2-メトキシ-1-メチルエチル)-6'-メチルアセトアニリド〔メトラクロール〕……30.0%と、2-クロロ-4,6-ビス(エチルアミノ)-s-トリアジン〔CAT〕……15.0%を有効成分とする水和剤である。

メトラクロールはアセトアニリド系除草剤で、主として幼芽部より吸収され、幼小植物を枯死させ、とくにメヒシバ等のイネ科雑草およびカヤツリグサ科雑草に卓効を示す。また、芝生用除草剤として、多年にわたって使用され普及されてきたCATはトリアジン系除草剤で、主として根部より吸収移行され、光合成阻害によって雑草を枯死させる。とくに、ハコベ・アカザ・タデ類等の広葉雑草には卓効を示す。本剤は、これら両剤の最適混合比による共力作用で、畑地一年生雑草全般に高い効果を示す。

毒性：急性経口毒性（ラット雄）は、メトラクロールが3100mg/kgのLD₅₀値を示し、CATが5000mg/kg以上と毒性が低く、ともに普通物である。

魚毒性（コイ）は、メトラクロールのTL_m48時間が9.6 μ mで、CATが40 μ m以上を示す。

使用方法：本剤は、春期メヒシバ等の畑地一年生雑草の発生前（3月下旬から4月中旬まで）

と秋期スズメノカタビラ等の畑地一年生雑草の発生前（9月下旬から10月中旬まで）に、10アール当り400～600gを200～300lの水に希釈し、全面土壌散布する。

使用上の注意：本剤は、雑草発生前の散布が有効で、発芽後の雑草には効果が劣るため、既発生 of 雑草は手取除草後に散布する。秋期には、時として雑草が一斉に発生しないことがあるので、多めの薬量（600g）が効果的である。土壌が乾燥している場合には、希釈水量を多めに散布する。

本剤を散布する周辺に洋芝がある場合には、散布液がかゝらないように注意する。傾斜地で散布後に降雨が予想される場合には、薬剤が局所的に集中し、薬害が発生することがあるので使用を避ける。芝張り直後の芝生は、薬害が発生しやすいので、使用しないこと。

ゾリアル®粒剤・水和剤

ノルフルラゾン除草剤

(取扱メーカー)

日本曹達株式会社

サンド薬品株式会社

対象作物：桑。

成分：本剤は4-クロロ-5-メチルアミノ-2-(3-トリフルオルメチルフェニル)ピリダジン-3-オンを有効成分とする除草剤で、粒剤は2.5%、水和剤は80%含有する。

作用特性：本剤は、主に根部から植物体内に吸収され、葉緑素欠損症状をあらわし、葉緑素の光酸化反応を阻害して白化を起こさせ、植物体を枯殺する薬剤である。発芽阻止力は弱いが、

新除草・調節剤

発芽後、直ちに枯死に至らしめる。雑草の発芽前～発芽時に非常に効果が高いために、耕起後に土壌処理する。残効性が極めて長く、一年生イネ科雑草に卓効を示すが、カヤツリグサ・広葉雑草に対しても効果がある。土壌中の移行性は小～中程度である。

毒性：ラットに対する急性経口毒性LD₅₀値は、雌8,400mg/kg、雄9,400mg/kgで普通物であり、魚毒性はA類である。

使用方法：粒剤は畑地一年生雑草の発生前に10a当り6～8kg、水和剤は同一条件で10a当り150～200gを水100～200lに希釈し、全面土壌処理する。

使用上の注意：①本剤は雑草発生前の処理が有効であり、既発生の雑草には効果が劣るので、必ず雑草発生前に全面に均一散布する。②イネ科雑草に比べ広葉雑草には効果が不十分な場合

があるので、広葉雑草の優占する圃場では、所定範囲内で薬量を多めにする。③土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので、土壌が適度の水分を含んでいるときに使用する。④間作物に対して薬害を生ずるおそれがあるので、本剤を処理した桑畑での間作物栽培はさける。⑤砂土では薬害を生ずるおそれがあるので、使用しないこと。⑥桑の葉や付近の農作物にかゝると薬害を生ずるおそれがあるので、本剤がかゝらないように注意する。⑦水和剤は所定量を所定量の水でうすめ、よくかき混ぜてから散布する。なお、散布液調製後は、できるだけ速やかに散布する。⑧散布液を調製した容器および散布器具は、使用後に水でよく洗うこと。

安全使用上の注意：通常の使用方法では、水産動植物に害を及ぼすおそれはないが、誤飲しないように注意すること。

植調協会だより

◎ 会議開催日程のお知らせ

- ・昭和57年度秋冬作野菜花き関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会

日時：昭和58年6月23～24日 10～17時

場所：白鳥園（長野県埴科郡戸倉町，TEL.

戸倉上山田 02627-5-0400)

◎ 人事異動

昭和58年5月1日付

任 事務局総務部 嘱託

中村 芳郎

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都台東区台東1丁目26番6号

電話 東京(03)832-4188(代)

昭和58年5月発行

植調第17巻第2号 ￥300(送料170)

編集人 日本植物調節剤研究協会専務理事 吉沢長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)833-1821番(代)

編集後記

薫風に頬をなでられながら夜空を眺めると、新彗星が飛び交い、いつしか夢の世界に導かれる。この狭い国土での農業の姿を宇宙より眺めると、さぞかし滑稽に映ることだろうが、広い視野に立って考えるべきではなかろうか。